

堂々と火消しの心意気示す

平成21年町消防演習



4月19日、町消防団（菊地民雄^お団長・団員数348人）の消防演習が行われました。

午前7時半のサイレンを合図に、主会場となった山田南小校庭には町消防団、山田町婦人防火クラブ連合会（阿部美恵^{みづみ}会長）など関係者約600人が集結。

開会行事では、統監の沼崎喜一町長が「近年県内でも大きな災害が発生しており、宮城県沖地震の発生も懸念される中、地域防災の要である消防団にはますます期待が寄せられている。地域防災のリーダーとしての自覚を持ち、よりいっそうご尽力願いたい」と訓示しました。

団員の各種表彰に続いて入・退団者の辞令交付式が行われ、入団者18人を代表して第1分団の佐藤肇^{はじむ}さん（船越・20歳）が力強く宣誓書を読み上げると、会場は凜とした雰囲気になりました。

その後は、消防団員が小・中隊訓練や消防操法（水出し操法）を機敏な動作で展開。大浦漁協



宣誓を行う佐藤肇さん

婦人部消防協力隊は、AED（自動体外式除細動器）を使用した救急訓練を行い、日ごろの訓練の成果を発揮しました。山田幼稚園の幼年消防クラブは、防火を呼び掛けるほほ笑ましい遊戯で演習に花を添えました。国道45号に会場を移して行われた分列行進では、各分団や消防車両による統制の取れた陣容を披露。続いて山田魚市場前で行われた放水訓練では、岸壁から高々と何本もの水の柱を上げ、堂々と火消しの心意気を示しました。

講評官の平克美^{かつみ}宮古地区広域行政組合消防本部消防長は「各分団とも連携が取れ、訓練の成果が発揮されており、極めて優秀な消防演習でした」と講評し、団員を讃えました。



演習に花を添えた山田幼稚園幼年消防クラブ